

札幌の歩み

1869(明治 2)	開拓使設置とともに札幌の開拓が始まる
1875(明治 8)	琴似に最初の屯田兵が入植
1911(明治44)	現大通公園ができる
1950(昭和25)	さっぽろ雪まつり(第1回)開催
1953(昭和28)	札幌～千歳間弾丸道路(現国道36号)舗装完成
1970(昭和45)	札幌市の人口100万人突破
1971(昭和46)	地下鉄南北線(北24～真駒内)開業 札幌地下街完成
1972(昭和47)	冬季オリンピック大会開催 政令指定都市へ移行
1998(平成10)	札幌駅北口開業
2009(平成21)	創成川通(創生トンネル)開通
2011(平成23)	札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)開通

*札幌市ホームページから抜粋し作成

表紙：JRタワーから西側を望む
目次：同じく北側を望む
裏表紙：同じく南側を望む(夕景)
令和元年11月～12月撮影



1869年の開拓使設置から歩み始めた札幌。1972年の札幌オリンピック冬季大会の開催でビルが建ち並ぶ都市へと大きく変貌しました。

今は東京2020オリンピック競技大会のマラソンと競歩競技の札幌開催が目前に迫り、また、2030年には北海道新幹線の札幌開業を迎えます。明治以来一貫して増え続けてきた札幌市の人口は、今後、初めて減少に転じることが見込まれており、これまでに経験したことのない新しい生活環境、都市文化を創造していく段階に入っています。

道都札幌がどのような変貌を遂げようとしているのか、道民の期待が集まっています。

変貌する道都札幌

JRタワーから東側を望む。手前に新幹線ホーム・駅舎が予定されており、創成川の柳も見える。高層マンションが建ち並び、線路の左手には北ガスグループの新社屋、札幌総合卸センターの新ビルが完成、卸センターだった東2、3丁目は再開発される。中央奥にJR苗穂駅が望まれ、あらためてその空間の可能性に驚く